

厚生労働科学研究費補助金
長寿科学総合研究事業

高齢者虐待の発生予防及び援助方法に関する国際的研究
(H13-長寿-026)

平成 15 年度総括研究報告書

主任研究者 多々良紀夫

平成 16 (2004) 年 3 月

目次

I. 総括研究報告書.....1

高齢者虐待の発生予防及び援助方法に関する国際的研究・多々良紀夫

資料

- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（日本語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（日本語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（英文）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（英文）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（ノルウェー語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（ノルウェー語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（フィンランド語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（フィンランド語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（中国語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（中国語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-15-22歳の人への質問票（韓国語）
- 高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する8カ国のアンケート調査（オーストラリア、カナダ、韓国、台湾、フィンランド、アメリカ、日本）-65歳以上の人への質問票（韓国語）

II. 研究成果の刊行に関する一覧表.....95

III. 研究成果の刊行物・別刷.....99

I. 総括報告書

高齢者虐待の発生要望及び援助方法に関する国際的研究

多々良紀夫

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
総括研究報告書

高齢者虐待の発生予防及び援助方法に関する国際的研究（H13－長寿－026）

主任研究者 多々良 紀夫 淑徳大学社会学部 教授

研究要旨：本研究は、主任研究者多々良が平成10年4月から平成13年3月末まで3年間にわたり、厚生科学研究費補助金の支援で行った日本国内での高齢者虐待に関する研究の成果を国際的なレベルへと発展させることを主な目的とした。すなわち、本研究では、日本から「発信」できるものは成果物として外国へも配布すること、同時に外国から学べることは国内で配布する成果物へ反映させることに重点をおいた。さらに、アジアの諸国と本研究で研究パートナーとして選んだ5カ国（アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア及びアルゼンチン）との交流や比較研究を行うことも目的の一つであった。本報告書では、様式A（4）－1に基づいて第3年度の研究成果のみを報告する。

<研究組織>

主任研究者

多々良紀夫（淑徳大学社会学部 教授）

研究協力者（海外）

パトリア・ブラウネル（Dr. Patricia Brownell）（フォーダム大学ソーシャルサービス大学院準教授）アメリカ

ジェリー・ベネット（Dr. Gerry Bennett）（ロイヤル・ロンドン医科・歯科大学教授）イギリス

リア・スザナ・ダイチマン（Dr. Lia Susana Daichman）（ベルグラノ大学心理学部教授）アルゼンチン

スーザン・クール（Dr. Susan Kurrle）（ホーンズビィ・クリング・ガイ病院リハビリテーション及び老人ケアサービス部長及び上級スタッフ専門医師）オーストラリア

※ジェリー・ベネット氏は、病氣療養中2003年4月13日に急逝した。本研究のための後任はブリジッド・ペンハール（Bridget Penhale）（ハル大学社会福祉学部上級講師）が着任した。

エリザベス・ポドニクス（Dr. Elizabeth Podnieks）（ライヤマン・工技術大学看護学部教授）カナダ

研究協力者（国内）

塚田典子（日本大学大学院グローバルビジネス研究科）

山口光治（国際医療福祉大学）

平田佳子（淑徳文化専門学校）

A. 研究目的

本年度は、本研究の最終年度であるので、これまでの活動の総まとめを行い、複数の成果物を完成させることが主要な目的であった。加えて、活動や作業の成果を内外の学会で発表することも、本年度の目的であった。最後に、前年度に開始した世界数カ国における高齢期の心配事等のアンケート調査を8カ国における1,600人の大規模な調査に発展させることも目的の中に含まれていた。

B. 研究方法

研究方法（又は目的達成のための方法）は、具体的な活動や作業によって異なった。まず、本研究が展開した大掛かりな国際的研究活動から述べることにする。主任研究者多々良は、第2年度から「高齢者期の心配事、政府に対する信頼度及び政府の高齢者の権利擁護の実績等に関する世代間の認識の相違の研究」をフィンランド、ノルウェー、米国及び日本の4カ国で開始した。この研究の目的は、「高齢期における心配事はなにか」「政府は高齢者の面倒をみていると思うか」「政府は高齢者の権利を守っていると思うか」などの問いに対する若者（15歳から22歳）と高齢者（65歳以上）の認識の違いを検証することであった。第2年度は、各

国において若者 50 人、高齢者 50 人（合計 100 人）のコンビニエンス・サンプルを対象にアンケート調査を行ったが、第 3 年度には、サンプル数を若者 100 人、高齢者 100 人に拡大する一方、新たにカナダ、オーストラリア、台湾及び韓国の 4 カ国を加えて合計 8 カ国とした。最後に、調査票は主任研究者が第 2 年度に日本語と英文で作成したものを、フィンランドとノルウェーの研究者がそれぞれの国の言葉に訳した。その後、第 3 年度になって、台湾と韓国の研究者が中国語（北京語）と韓国語に訳した。このような経過を経て、「高齢者期における心配事の研究」は、8 カ国における合計 1,600 人（若者 800 人、高齢者 800 人）を対象とする国際比較研究へと発展した。

次に、第 2 年度において、アメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェー及びアルゼンチンの研究協力者が自国の高齢者虐待への取り組みに関して執筆した論文は、主任研究者と上級研究員の監修の下、複数の翻訳者によって日本語の訳された。これらの翻訳された論文は、出版を引き受けた明石書店の編集者に渡り、目下校正が行われているところである。『アメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェー及びラテンアメリカ諸国における高齢者虐待への取り組みの現状』（仮）は平成 16 年 6 月に出版の予定である。

続いて、本研究班は第 2 年度から作業を開始していた日本と海外における高齢者虐待文献資料の収集活動の成果として『日本、北アメリカ及び英国における高齢者虐待文献資料』（第 2 版）を完成した。この出版物は日本、アメリカ及び英国の研究者が、主任研究者の監督の下、いくつかの最新の文献検索システムを使って高齢者虐待に関する数種類の文献リストを作成した。各国の文献情報は、国によって多少違いはあるが、以下のカテゴリーに分類した—
（1）書籍及びモノグラフ（報告書を含む）、
（2）雑誌論文及びブックチャプター、（3）政府刊行物及び（4）博士論文。この結果、合計 3,000 近い高齢者虐待文献アイテムを収集した資料集を完成させた。

さらに、本研究班は『高齢者虐待早期発見・早期介入ガイド』（第 4 版）をいくつかの日本の虐待事例を加えて完成させた。この作業にあ

たっては、第 3 版を配布した際に同封した評価票の集計と分析の結果と第 3 版配布後に読者から寄せられた高齢者虐待事例の情報から数点選び、第 3 版より以前から掲載されていた虐待事例を交代させる形でガイドに加えた。第 4 版は、全国の在宅介護支援センター及び老人デイサービスセンターから、全国社会福祉協議会のコンピューターシステムが無作為抽出法で選んだ 1,500 機関へ配布した。さらに、同ガイドは、米国高齢者虐待問題研究所（NCEA）の協力を得て、北アメリカの代表的な日本人コミュニティへも配布されることになっている。

倫理面への配慮

本研究においては、絶えず倫理面へは最大の配慮を払い研究活動を行ってきた。特に高齢期の心配事の研究に関しては、各国でアンケート調査を担当した研究者らは、対象者（高齢者とか若者を問わず）のプライバシーや人権の尊重に最高の注意を払った。その結果、この 1,600 人のアンケート調査を無事終了することができたのであった。

C. 研究結果

ここでは、高齢期の心配事の国際比較研究のみに関して研究・調査結果を報告する。まず、高齢期における心配事についてであるが、若者の場合、6 カ国（アメリカ、ノルウェー、フィンランド、韓国、台湾そしてカナダ）の若者は、「自分または配偶者の病気」が最も深刻な心配事であるといったのに対し、日本の若者は「将来の年金の存続」が最も大きな心配事だと答えた。この解答は調査時期に日本で年金の問題が大きく取り上げられていたことが反映した結果かもしれない。一方、高齢者者の心配事に関する考え方は、国ごとに大きく異なった。すなわち、日本、韓国及び台湾の高齢者は、「自分または配偶者の病気」が最も大きな心配事だと答えたのに対し、ノルウェー、フィンランド及びカナダの高齢者にとっては「介護をしてくれる人がいるか」が最も深刻な心配事であった。このような回答もよく考えてみるとかなり妥当性の高いものとして理解されるであろうか。

次に、「政府は高齢者の面倒を十分みているかどうか」若者と高齢者にきいてみた。若者の場合、96%の韓国の若者、そして 54%の日本

の若者が「不十分」だと答え、他のどの国の若者よりも自国の政府に批判的であったのは、意外であった。同時に、わずか8%しか「不十分」だと答えなかったフィンランドの若者の考え方も意外性があった。このような調査の場合、半分くらいの回答が「普通」という当り障りのないものとされるが、韓国の若者の場合、「普通」と答えたものはわずか4%であった。さすがに、この問いに「十分」であると答えた若者の割合は、どの国でも少なかったが、51%が「十分」だと答えたフィンランドの若者の認識は、「十分」であると答えたものが全くいなかった韓国と、わずか2%が「十分」だと答えた台湾の若者の認識と同様、興味深いものがある。ちなみに、日本の若者の場合、8%が「十分」だと答えたので、彼らの回答パターンは、アメリカ(12%)やノルウェー(8%)の若者と似ていた。

「政府が、高齢者の面倒を十分みているかどうか」について、高齢者自身はどう考えているのであろうか。若者と同様、「十分でない」「不十分」であるという回答がほとんどの国で「十分」を上回っていたようであったが、そうでない国もあった。まず、韓国の高齢者の場合、「不十分」と答えた者が86%もいたので、若者と同じような回答パターンであった。しかし、日本の高齢者の場合は若者と異なり、「不十分」という者は28%しかいなかった。興味深かったのは、フィンランドの若者と高齢者の認識の違いであった。先にも述べた通り、わずか8%のフィンランドの若者が「不十分」であると答えたのだが、51%の高齢者が同様な回答をしていたのであった。アメリカの高齢者の場合、「政府が高齢者の面倒を十分みている」と答えた者が31%で、「不十分」であると答えた者の23%より多かったことと、その割合が他のどの国よりも多かったことは、注目すべき事実であった。最後に、「十分」と答えた日本の高齢者は17%で、「不十分」といった高齢者よりその割合は少なかった。他の国と同じように半分くらいの高齢者は、「普通」と答えていたのであった。

続いて、「政府は、高齢者の権利を十分守っているかどうか」について若者と高齢者の考えを聞いた。若者の場合、韓国、日本及び台湾の

若者は他の国の若者より自国の政府の高齢者権利擁護の実績により批判的であった。具体的には、90%の韓国の若者、63%の日本の若者、そして61%の台湾の若者が政府の高齢者の権利擁護は「不十分」であると答えたのであった。これらの回答は、アメリカの若者(32%)、ノルウェーの若者(27%)、フィンランドの若者(6%)、カナダの若者(34%)、オーストラリアの若者(22%)が政府の高齢者の権利擁護の実績は「不十分」であると答えた割合よりもはるかに多いことがわかる。先にも述べたように、これまではアジアの若者は「自己の意見をあまり主張しない」とか「政府の仕事に対して批判はあまりしない」といわれてきたが、このアンケート調査結果を見る限り、アジア諸国の若者は、欧米職の若者より自国の政府に対して批判的であった。さらに、興味深い発見は、フィンランドの若者の回答パターンであった。すなわち、彼らのわずか6%が政府の高齢者権利擁護の対応は、「不十分」だと答えたのに対し、57%の者が、政府の高齢者権利擁護の対応は「十分」であると答えていたのであった。この割合は、他のどの国の若者よりも飛び抜けて多かった。例えば、「十分」であると答えた若者は韓国には1人もいなかったし、日本の若者の場合はわずか3%、そして台湾では2%しか、政府の高齢者権利擁護の実績は「十分」であると答えていなかった。

この問題について、高齢者自身はどう認識していたのであろうか、全体的に若者と同じように「十分」だと答えた者は、「不十分」だと答えた者よりかなり少なかった。しかし、それぞれの国の回答パターンには、特徴があった。例えば、韓国の場合、88%の高齢者が「不十分」と答え、残りは「普通」と答えたので、「十分」と答えた者は1人もいなかった。台湾の場合は、43%の者が「不十分」と答えたのに対し、「十分」と答えたのはわずか4%であった。約半分(53%)の台湾の高齢者は、政府は高齢者の権利擁護に「普通」の対応をしていると回答していた。日本の高齢者の場合、38%の者が政府の高齢者権利擁護の実績は「不十分」だと答えたが、その割合を上回る55%の高齢者が政府の対応は「普通」だと評価していたので、政府は「十分」に高齢者の権利を守っていると答

えた者はわずか7%であった。欧米の国々の高齢者の場合、「十分」であると答えた高齢者の割合は、いずれも日本、台湾、または韓国の高齢者より多かった。最後に、アメリカの場合、「十分」(27%)と答えた高齢者の割合の方が「不十分」(25%)と答えた高齢者の割合より少し多かった。

D. 考察

高齢者の心配事に関して、各国間の共通点は年齢層の中ではかなりあったといえる。特に若者の間では、8カ国中6カ国の若者が、「自分または配偶者の病気」をもっとも大きな高齢期の心配事として選んだ。この中には、韓国と台湾の若者が入っていたが、日本の若者は「将来の年金の存続について」の方がより大きな心配事であった。高齢者の場合、注目されたのはノルウェーとフィンランドの高齢者の心配事が全く一致したことである。すなわち、両国の高齢者のもっとも大きな心配事は「介護をしてくれる人がいるか」であり、2番目は「世界の平和や環境問題について」、そして3番目は「自分または配偶者の病気」であった。次に、日本、韓国及び台湾の3カ国に関して言えば、これらの3カ国の高齢者のもっとも深刻な心配事は「自分または配偶者の病気」で一致したが、2番目と3番目については3カ国の一致はみられなかった。アメリカとカナダの高齢者の場合、心配事に関してはお互いに別のことを考えていた。ちなみに、アメリカでは「世界の平和や環境問題について」が、この調査にかかわった高齢者の最も大きな心配事であった。しかし、この回答が一般的なアメリカの高齢者の心境を代表しているとは思えない。一方、カナダの高齢者は、「介護をしてくれる人がいるのか」を最も心配していた。最後に、高齢期の心配事に関する限り、どの国でも世代間で考え方がかなり異なっていた。例外は、韓国と台湾の高齢者にとって「自分または配偶者の病気」が最も大きな高齢期の心配事であった。さらに、韓国においては、若者も高齢者も「介護してくれる人がいるか」を2番目に大きな心配事としてあげた。この調査に限って言えば、世代間の考え方の相違は、欧米の国の方がアジアの国より大きかった。

E. 結論

「高齢者期の心配事、政府に対する信頼度及び政府の高齢者の権利擁護の実績等に関する世代間の認識の相違の研究」は、世界的にも類のない大掛かりな国際的世代間比較研究であった。世界8カ国において合計1,600人の若者と高齢者が多々良研究室が考案して作成したアンケート調査票を記入したわけだが、各国の研究協力者とアシスタントらの協力がなければ、アンケート調査は成功していなかったであろう。データの分析及びグラフの作成等に関しては、多々良研究室のリサーチアシスタントが大勢関わった。そのような大掛かりな調査研究結果から学んだことはいくつかあるが、主要なものは以下のとおりである—(1)この研究にかかわった韓国の若者と高齢者に関する限り、彼らは研究に参加したほかのどの国の同世代の者よりも高い割合で、自国の高齢者に対する政策や権利擁護の取り組み方に批判的な考えを示した。この結果は、韓国を良く知らない者にとっては意外であったが、何か特別な納得のいく説明があるのかもしれない。(2)日本の若者の考え方は、韓国や台湾の同世代の者よりも、欧米の若者に類似するところがみられた。例えば、「政府が高齢者の面倒みているかどうか」及び「政府は高齢者の権利を守っているかどうか」という問いに対する日本の若者の回答パターンは、むしろ欧米の若者に似ていた。

(3)日本の高齢者の場合、韓国や台湾ほどではないが、政府の政策等に批判的な高齢者の割合は欧米よりも多かった。この発見は、日本の研究者にとっても、また欧米の研究者にとっても意外であった。最後に、主任研究者多々良は、この高齢者の心配事の研究に関して、今後2つの目標がある。第1に、アメリカの老年学の専門雑誌に投稿論文を執筆すること。そして第2に、ここで述べた調査結果を2005年アメリカ老年学会においてシンポジウムを組んで他の研究協力者とともに発表することである。主任研究者は、この2つの目標を達成するために全力を尽くす覚悟である。総括として言えることは、本研究の成果物と活動(学会発表等)は日本と海外において多くの実践者や研究者に大きなインパクトを与えたということである。

F. 健康危険情報

本研究のプロセスにおいて、また研究結果においても健康危険情報として把握したことは特にない。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 多々良紀夫 (2003) 「高齢者の虐待について—アメリカと日本の取り組みの現状—」『老年社会科学』Vol.25 No.3, 339-348.

2. 学会発表

- 日本高齢者虐待防止学会大会, 日本大学文理学部国際会議場, 平成 15 年 8 月 9 日

「アメリカにおける高齢者虐待への取り組みの現状」発表者: 多々良紀夫

- The 56TH Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America(GSA) (第 56 回アメリカ老年学会年次大会) 米国カリフォルニア州・サンディエゴ市サンディエゴ会議場, 2003 年 11 月 22 日

“A Study of Differences in the Perceptions about Future Concerns, Governmental Functioning and Elder Rights Protection in Four Countries – A Symposium”発表者: 多々良紀夫 (総括及び日本のアンケート調査), S. Peruttu (フィンランド), 塚田典子 (日本大学大学院グローバルビジネス研究科), O. Juklestad (ノルウェー), P. Brownell (アメリカ), J. Kosberg (アメリカ).

- The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology (第 7 回世界老年学会アジア/オセアニア地域大会)、東京有楽町国際フォーラム, 平成 15 年 11 月 26 日.

“Understanding the Early Detection and Early Intervention in Elder Abuse in Developed and Developing Countries– A Symposium” 発表者: 多々良紀夫 (総括), E. Podnieks (カ

ナダ), P. Brownell (アメリカ), S. Kurrle (オーストラリア), B. Penhale (イギリス).

“Efforts to Develop Measures for Combating Elder Abuse in Asian Countries: A Status Report– A Symposium”発表者: 多々良紀夫 (総括), Chii-Yuan Tsai (台湾), Mala Kapur Shankardass (インド), 安梅勅江 (日本), Dong Hee Han (韓国).

- The 13th Annual Meeting and Leadership Conference of the Association for Gerontology in Higher Education (高等教育に老年学の導入を推進する学会の第 13 回年次大会) アメリカヴァージニア州リッチモンド・マリオットホテル
“Gerontology Education in Japan”発表者: 塚田典子, 多々良紀夫.

追記:

本年度研究協力者

レベッカ・ルエック (Rebecca Lueck)

Self-Help for the Elderly, San Francisco, CA 9411 U.S.A.

資料

《15 – 22 歳の人への質問票》(日本語)

高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する 8カ国のアンケート調査

—オーストラリア・カナダ・ノルウェー・韓国・台湾・フィンランド・アメリカ・日本—

《15～22歳の人への質問票》

この調査研究の目的は、8つの国の若年者（15から22歳）および高齢者（65歳以上）が、将来のことについてどのようなことを心配しているか、また、それぞれの政府の取り組みや高齢者の権利が守られているかどうか等について、どのように考えているかを聞くものです。したがって、このアンケート調査では、「正しい答え」や「間違った答え」はありません。

どうぞアンケートにご協力の程宜しく願いいたします。

I. 基本属性に関する情報についてお尋ねします。

Q1. 今日現在、あなたの年齢はいくつですか？ _____ 歳

Q2. あなたの性別を教えてください。 1. 男性 2. 女性

Q3-1. 現在、あなたは学校に通っていますか？下の中から当てはまる番号に一つ○をつけて下さい。

1. 高校生 2. 大学生 3. その他 ()

Q3-2. 現在あなたは働いていますか？ 下の中から当てはまる番号に一つ○をつけて下さい。

1. 働いてない
2. パートタイムで働いている
3. フルタイムで働いている

Q4. 現在 あなたは、おじいさん、おばあさんのどなたかと一緒に住んでいますか？当てはまる番号に、一つ○を付けてください。

1. 住んでいる 2. 住んでいない (→Q5へ進む)



SQ. 誰と一緒に住んでいますか。下の中から当てはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

1. 祖父母と 2. 祖父のみ
3. 祖母のみ
4. その他 ()

Q5. あなたはこれまでに、誰かが「高齢者の権利」について話しているのを聞いた事がありますか？

1. ある 2. ない (→Q6へ進む)



SQ. 誰が話していましたか？下の中から当てはまる番号全てに○をつけて下さい。

1. ニュース・メディア (テレビ、ラジオ、新聞等) 2. 隣人
3. 友達 4. 家族
5. 学校の先生 6. 本や雑誌の読み物
7. その他 ()

II. 将来の心配ごと、政府のあり方および高齢者の権利についての考えについてお尋ねします。

Q6. あなたが、現在の日本とあまり変わらない社会状況の中で、40年～50年ほど年をとっていきくと仮定した場合、あなたの高齢期において最も心配なことは何ですか？ 次の中で、あなたの考えに最も近いものを2つ選び、その番号に○をつけてください。

1. 自分または自分の配偶者が病気になったり虚弱になったりすること
2. 介護が必要になった時、介護をしてくれる人がいるかどうか
3. 生活に必要なお金や医者に行くお金があるかどうか
4. 他の人からの尊敬を失う／差別されること／無視されること
5. 頼りにできる人がいなくなること
6. 老人ホームに行かなくてはいけないようになること
7. 仕事を続けられるかどうか
8. 世界の平和や環境問題について
9. 自分が退職する頃にも年金があるかどうか
10. 自分の家族の安全（例：犯罪等）について
11. その他（)
12. 心配は別に無い

Q7-1. 一般的に言って、あなたの国の政府（国および地方を含めて）は、高齢者の面倒を十分に見ていると思いますか？ 下の中から、自分の意見に一番近い番号に1つ○をつけてください。

1. 全く不十分である（抜本的な改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーAへ）
2. 大変不十分である（かなりの改良が必要である）（ 上に同じ ）
3. まあまあふつう（ある程度改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーA&Bへ）
4. 十分に面倒をみている（少し改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーBへ）
5. 素晴らしく十分に面倒をみている（何も不満はない）（ 上に同じ ）

Q7-2. なぜその様に思いますか？ あなたの考えに近いもの全ての番号に○をつけてください。

カテゴリーA（Q7-1で、1、2、または3に○をつけた人）

1. 介護・福祉（老人ホームや在宅サービス等）サービスの経費が高いと思うから
2. 介護施設や福祉サービスの数や質が十分ではないと思うから
3. 年金制度が充実しているとは思わないから
4. 医療や薬にかかるお金が高いと思うから
5. 病院や医療施設の数や質が充実しているとは思わないから
6. 高齢者の声が国（や政府）に聞いてもらえないと思うから
7. 高齢者への予算が少ないと思うから
8. 地域差が大きいと思うから
9. 高齢者の働く場がなく、また、高齢者が無視されていると感じるから
10. その他の理由：（)

カテゴリーB（Q7-1で、4、5、または3に○をつけた人）

11. 介護・福祉（老人ホームや在宅サービス等）が数も質も充実していると思うから
12. 年金制度が充実していると思うから
13. 医療保険制度があり、病院や医院の数やサービスの質も充実していると思うから
14. 高齢者の声が国（や政府）に聞いてもらえると思うから
15. 高齢者への予算が十分だと思うから
16. 全国押しなべて、高齢者は不自由無く暮らせているから
17. その他の理由：（)

Q8. あなたはこれまでに、誰かが高齢者虐待について話しているのを聞いた事がありますか？

1. ある 2. ない (→Q9へ進む)

SQ. それは誰が話していましたか？ 下の中から当てはまる番号全てに○をつけて下さい。

1. ニュース・メディア (テレビ、ラジオ、新聞等) 2. 隣人
3. 友達 4. 家族
5. 学校の先生 6. 本や雑誌の読み物
7. その他 ()

Q9. あなたはこれまでに、誰かが児童虐待について話しているのを聞いた事がありますか？

1. ある 2. ない (→Q10-1へ進む)

SQ. それは誰が話していましたか？ 下の中から当てはまる番号全てに○をつけて下さい。

1. ニュース・メディア (テレビ、ラジオ、新聞等) 2. 隣人
3. 友達 4. 家族
5. 学校の先生 6. 本や雑誌の読み物
7. その他 ()

Q10-1. 一般的に言って、高齢者の権利は、日本の政府によって十分に守られていると思いますか？

下の中から、自分の意見に一番近い番号に1つ○をつけてください。

1. 全く守られていない (→Q10-2の選択肢のカテゴリーAへ進む)
2. あまり守られていない (上に同じ)
3. まあまあふつう (→Q10-2の選択肢のカテゴリーA&Bへ)
4. 大変よく守られている (→Q10-2の選択肢のカテゴリーBへ進む)
5. 素晴らしく十分に守られている (上に同じ)

Q10-2. なぜその様に思うのですか。あなたの考えに近いもの全ての番号に○をつけて下さい。

カテゴリーA (Q10-1で、1、2、または3に○をつけた人)

1. 高齢者の意見を出す場がなく、無視されていると思う時があるから
2. 高齢者の権利について、本人に知らされてなく、尊厳が守られてないと思うから
3. 年金制度が充実しているとは思わないから
4. 医療や薬にかかるお金が高いと思うから
5. 情報が不十分だと思うから
6. 定年制があり、退職すると安定して収入がなく、不安が残るから
7. 老人ホームや家庭で高齢者虐待があると聞いているから
8. 選挙の時は高齢者福祉を訴えるが、本当に高齢者のことを考えている候補者はいないから
9. 年齢による差別があると思うから
10. 一人暮らしの高齢者は孤独で、生活環境も良くないから
11. その他の理由：()

カテゴリーB (Q10-1で、4、5、または3に○をつけた人)

12. 介護・福祉 (老人ホームや在宅サービス等) が数も質も充実していると思うから
13. 年金制度が充実していると思うから
14. 医療保険制度があり、病院や医院の数やサービスの質も充実していると思うから
15. 他の国に比べるといろいろな権利が与えられているから
16. 一人暮らしの高齢者でも生きていけるから
17. その他の理由：()

アンケート調査にご協力いただきまして有難うございました。

《65歳以上の人への質問票》(日本語)

| | |
|--|--|
| | |
| | |

高齢者の権利及び高齢期の心配事に関する 8カ国のアンケート調査

—オーストラリア・カナダ・ノルウェー・韓国・台湾・フィンランド・アメリカ・日本—

《65歳以上の人への質問票》

この調査研究の目的は、8つの国の若年者（15歳から22歳）および高齢者（65歳以上）が、将来のことについてどのようなことを心配しているか、また、それぞれの政府の取り組みや高齢者の権利が守られているかどうか等について、どのように考えているかを聞くものです。

したがって、このアンケート調査では、「正しい答え」や「間違った答え」はありません。

どうかアンケートにご協力の程宜しく願いいたします。

I. 基本属性に関する情報をお尋ねします。

Q1. 今日現在、年齢はおいくつですか？ _____ 歳

Q2. あなたの性別を教えてください。 —> 1. 男性 2. 女性

Q3-1. 現在、あなたは仕事に就いておられますか。

1. はい
2. いいえ

Q3-2. 現在の職業、又は、退職前の職業は何でしたか？ _____

Q4. 現在、あなたは、あなたのお子さんやお孫さん(たち)と一緒に住んでおられますか？
当てはまる番号に一つ○を付けてください。

1. 住んでいる
2. 住んでいない (—> Q5へ進む)



SQ. だれと一緒に住んでいるか教えてください。当てはまる番号全てに○を付けて下さい。

1. 子ども
2. 子どもとその配偶者
3. 孫
4. その他 (_____)

Q5. あなたはこれまでに、自分自身の人権が侵害されたと感じた事がありますか？

1. ある
2. ない (—> Q6へ進む)



SQ. それはどのような場合であったのか、具体的に例を一つ記入してください。

II. 将来の心配ごと、政府のあり方および高齢者の権利についてお尋ねします。

Q6. あなたが現在最も心配なことは何ですか？次の中であなたの考えに最も近いものを2つ選び、その番号に○をつけてください。

1. 自分または自分の配偶者が病気になったり虚弱になったりすること
2. 介護が必要になった時、介護をしてくれる人がいるかどうか
3. 生活に必要なお金や医者に行くお金があるかどうか
4. 他の人からの尊敬を失う／差別されること／無視されること
5. 頼りにできる人がいなくなる
6. 老人ホームに行かなくてはいけないようになること
7. 自分の子どもの将来
8. 世界の平和や環境問題について
9. 若い人達の将来
10. 自分と自分の家族の安全（例：犯罪等）について
11. その他（)
12. 心配は別に無い

Q7-1. 一般的に言って、あなたの国の政府（国および地方を含めて）は、高齢者の面倒を十分に見ていると思いますか？下の中から、自分の意見に一番近い番号に1つ○をつけてください。

1. 全く不十分である（抜本的な改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーAへ）
2. 大変不十分である（かなりの改良が必要である）（ 上に同じ ）
3. まあまあふつう（ある程度改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーA&Bへ）
4. よく面倒をみている（少し改良が必要である）（→Q7-2の選択肢カテゴリーBへ）
5. 素晴らしく十分に面倒をみている（何も不満なし）（ 上に同じ ）

Q7-2. なぜその様に思われるのですか？あなたのお考えに近いもの全てに○をつけて下さい。

カテゴリーA (Q7-1で、1、2、または3に○をつけた人)

1. 介護・福祉（老人ホームや在宅サービス等）サービスの経費が高いと思うから
2. 介護施設や福祉サービスの数や質が十分ではないと思うから
3. 年金制度が充実しているとは思わないから
4. 医療や薬にかかるお金が高いと思うから
5. 病院や医療施設の数や質が充実しているとは思わないから
6. 高齢者の声が国（や政府）に聞いてもらえないと思うから
7. 高齢者への予算が少ないと思うから
8. 地域差が大きいと思うから
9. 高齢者の働く場がなく、また、高齢者が無視されていると感じるから
10. その他の理由：（)

カテゴリーB (Q7-1で、4、5、または3に○をつけた人)

11. 介護・福祉（老人ホームや在宅サービス等）が数も質も充実していると思うから
12. 年金制度が充実していると思うから
13. 医療保険制度があり、病院や医者の数やサービスの質も充実していると思うから
14. 高齢者の声が国（や政府）に聞いてもらえると思うから
15. 高齢者への予算が十分だと思うから
16. 全国押しなべて、高齢者は不自由無く暮らせているから
17. その他の理由：（)

《15 - 22 歳の人への質問票》(英文)

A Survey on Intercultural and Intergenerational Differences in Young People's Perceptions about Future Concerns, Governmental Functioning, and Elder Rights Protection in Eight Countries (Australia, Canada, Norway, Korea, Taiwan, Finland, U.S.A., and Japan)

Questionnaire for Young People (15 - 22 years old)

The purpose of this survey is to find out how young people (15-22 years old) and older people (65 years old and older) in eight countries perceive their future concerns, governmental functioning, and elder rights being protected. There are no right or wrong answers in this survey and the respondents' identity and answers will be kept strictly confidential. Please answer all questions and return the completed questionnaire to your country's project coordinator promptly.

I. Basic Information

Q1. How old are you, as of today? _____ years old Today's date: ____ / ____ / 03

Q2. What is your gender? Please circle one. 1. Male 2. Female

Q3-1. Are you going to school now? Please circle one that applies.

1. Going to high school
2. Being in college/university.
3. Others (Please specify: _____)

Q3-2. Are you working now? Please circle one that applies.

1. Not working at all
2. Working part-time
3. Working full-time

Q4. Do you currently live with your grandparent(s)? Please circle one that applies.

1. Yes
2. No (=> Go to Q5)



SQ. If "Yes," please tell us whom you live with. Please circle one that applies.

1. Grandparents
2. Grandfather only
3. Grandmother only
4. Others. (Please specify: _____)

Q5. Have you ever heard of anyone talking about the "rights of older people" ?
Please circle one that applies.

1. Yes
2. No (=> Go to Q6)



SQ. If "yes," please tell us who was talking about them. Please circle all items that apply.

1. News media (TV, Radio, Newspapers).
2. Neighbors.
3. Friends.
4. Family member(s).
5. Teacher(s) at school
6. Books, magazines, etc.
7. Others. Please specify _____

II. Perceptions About Future Concerns, Governmental Functioning, and Elder Rights Protection

Q6. Assuming that you will get older through the normal process of aging and assuming that the world will change only through the normal course of events in the next 40 to 50 years, what would be **two** things that you would be concerned about most in your own old age?

Please circle only **two** items that apply.

1. Me/my spouse becoming sick and frail.
2. Whether long-term care is available when I need it.
3. Having not enough money to live on and see doctors.
4. Losing respect from others/or getting discriminated against.
5. Having no one to turn to.
6. Having to go to the nursing home.
7. Whether I can hold a job.
8. World peace and/or environmental issues.
9. Whether I have a pension when I retire.
10. My own/my family's safety; crimes.
11. Others. Please specify _____.
12. I have no particular worries.

Q7-1. Overall, how **well** do you think your governments (including the national and local governments) are looking after the needs of older people? Please circle **one** that is closest to your opinion.

1. Not well at all (Need fundamental change).
2. Very poorly (Need great improvement).
3. Fair (Need some improvements).
4. Very well (Need a little improvement).
5. Excellently well (I have no complaints).

Q7-2. Using the list of "reasons" below, please tell us why you think the way you do in the question (Q7-1). Please note that those who chose "3" in Q7-1 are requested to review both A and B lists of reasons and choose items that would reflect your thinking.

A. For those who chose "1," "2" or "3" in Q7-1, please circle all items that would reflect your thinking.

1. Because I think the costs of long-term care and social services for older people are exorbitantly high.
 2. Because I think there is a shortage of nursing care facilities and social services and the quality of these services is less than satisfactory.
 3. Because I do not think our pension system is as solid as it should be.
 4. Because I think the costs of medical care and drugs are extremely high.
 5. Because I do not think existing medical care facilities(hospitals, clinics) are meeting our needs in terms of their availability and the quality of their services.
 6. Because I do not think our government is willing to hear the voices of older people.
 7. Because I think our national budget set aside for older people is too small.
 8. Because I think there are huge disparities in the availability and quality of services for older people depending on the region of the country.
 9. Because I think there is a shortage of jobs for older people and the needs of older people are ignored by our society.
 10. Others. Please give us other reasons why you think your governments are not looking after older people.
-